

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団

第12回

定期演奏会

*Nagoya Univ. of the Arts
Philharmonic Orchestra*



指揮：松井 慶太

©Ayane Shindo



バス独唱：森 寿美



合唱：名古屋芸術大学ハルモニア合唱団

2023.11.29 wed

開演：18：30 / 開場：18：00

三井住友海上 しらかわホール

PROFILE



©Ayane Shindo

指揮：松井 慶太

1984年青森県八戸市生まれ。3歳よりピアノ、15歳よりオーボエを学び、16歳のときピアニストとしてポーランド国立クラクフ交響楽団と共演。2007年、東京音楽大学指揮科卒業。指揮を広上淳一、汐澤安彦に師事。2006年、韓国で行われたアジア・フィルハーモニック・オーケストラにて指揮をチョン・ミョンフンに師事。2009年、第15回東京国際音楽コンクール入賞・奨励賞受賞。これまでに、ライブツィヒ交響楽団、ブラハ交響楽団室内オーケストラ、ドナウ交響楽団、東京シティ・フィル、日フィル、バンフィックフィルハーモニア東京、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪響、九響、京響、群響、札響、セントラル愛知響、仙フィル、名フィル、山響、シエナ・ウインド・オーケストラ、東京吹奏楽団、東京室内歌劇場等を指揮。2008～2014年には、N響定期演奏会にてシャルル・デュワ、チョン・ミョンフン、ファビオ・ルイーゼ、トッガン・ソヒエフらのもとで合唱指揮を務め、公演を成功に導く。2017年からはオーケストラ・アンサンブル金沢、伝統芸能&室内オペラシリーズを指揮し、好評を博している。2011年～2018年東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス。2022年9月よりオーケストラ・アンサンブル金沢コンダクターに就任。2023年4月より東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任講師。

オーケストラ：

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団

本学教員及び東海地区のプロプレイヤーにより2020年に編成されたオーケストラ。小編成によるアンサンブルをモットーとし、バロックから現代曲まで柔軟に対応。特に小編成を生かした古典作品には、古楽器を加えるなど、他に類を見ない新しい試みを取り入れている。また優秀な学生をレジデントプレイヤーとしてオーケストラに参加させるなど、教育面にも力を注いでいる。



バリトン：森 寿美

大阪教育大学卒業。沖縄県立芸術大学大学院修了。ミュンヘン音楽大学大学院修了。第5回長久手国際声楽オペラコンクール第1位、第43回ドヴォルジャーク国際声楽コンクールオペラ部門第2位(チェコ)、第79・85回日本音楽コンクール声楽部門(歌曲)入選、ABC新人コンサート音楽賞等の受賞がある。これまでにヘルムート・リリング、ウルフ・シルマー、秋山和慶各氏のもとでソリストとして出演した。またミュンヘン放送管弦楽団、カルロヴィヴァリ交響楽団(チェコ)、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団等との共演があり『ヨハネ受難曲』、『天地創造』、『第九』、『ドイツ・レクイエム』等に出演する。オペラでは、プリンツレゲンテン劇場(ミュンヘン)、堺シティオペラ、みつなかオペラ等に出演し、『フィガロの結婚』伯爵、『魔笛』パバゲーノ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『メリー・ウイドウ』ダニロ等の出演がある。ドイツリート演奏活動も積極的に取り組んでおり、NHK-FM『リサイタル・ノヴァ』に出演するなど活動の場を広げている。現在、愛知県立芸術大学准教授、名古屋芸術大学非常勤講師。

合唱：

名古屋芸術大学ハルモニア合唱団

2019年社会貢献に繋がる質の高い人材育成を目的として混声合唱団を設立。メンバーは中部圏で活躍するプロ歌手で構成され、現在31名。少人数ながら卓越した歌唱力と優れたアンサンブルにより、類い稀な美しいハーモニーを創り出し、聴衆を魅了している。これまでに大学主催のオーケストラ定期演奏会においてモーツァルト「戴冠ミサK.317」「雀のミサK.220」ハイドン「ネルソンミサ」を好演。また、ベートーヴェン「第九」「荘厳ミサ」等東海地区で活躍するプロオーケストラ、外部合唱団への賛助出演も積極的に参加している。ミサ、オラトリオ等の宗教曲からオペラ、オペレッタ、ミュージカル、邦人作品の合唱曲まで幅広いレパートリーを熟す。

